



2026 年 10 月 7 日

各 位

会 社 名 岡本硝子株式会社
代表者名 代表取締役会長兼 CEO 岡本 毅
(コード番号 7746 東証スタンダード)
問合せ先 財務経理部長 風間 卓
電 話 04-7137-3111

ノーベル物理学賞受賞に係る「IceCube プロジェクト」への当社製品の供給について

2026 年のノーベル物理学賞が、南極の氷を用いた「IceCube プロジェクト」を主導されたフランシス・ハルツェン教授（米国ウィスコンシン大学マディソン校）に授与されることが 10 月 6 日に発表されました。

本プロジェクトにおいては、当社が開発した「ガラス製耐圧容器」が、ニュートリノ検出器「D-Egg」の主要構成部材として貢献しております。

記

1. 受賞の背景と当社の貢献

「IceCube プロジェクト」はニュートリノを観測する世界 14 カ国のプロジェクトであり、日本からは、千葉大学の「ハドロン宇宙国際研究センター」が参画しています。

当社は、氷の再凍結時に発生する約 70MPa の高圧（深海 7,000 メートル級の水压に相当）に耐える「高耐圧性」、観測を妨げない「低放射線性」、さらに、「紫外域での高透過率」という極めて高度な要求を満たす耐圧ガラス球を開発してまいりました。これは当社の材料開発技術、精密成型技術、品質保証技術が世界最先端の科学プロジェクトで高く評価されたことを示す実績です。

2. 当社の技術基盤について

今回の採用と観測への貢献は、当社が海洋研究開発機構（JAMSTEC）等と共同開発した深海探査機器「江戸っ子 1 号®」プロジェクトで培った、深海 7,000 メートル級の水压に耐えるガラス成型・評価技術を基盤としています。

当社は極限環境下での高い耐圧性能と光学性能を両立する技術を蓄積しており、その技術を更に発展させて「IceCube プロジェクト」へ展開しました。これらの技術は宇宙物理学分野に加え、深海探査、海洋計測、先端センシング分野等への展開が期待され、当社の成長を支える重要な技術資産となっています。

3. 今後の見通し

「IceCube プロジェクト」の最終形では、1 穴当たり 80 台の「D-Egg」を 120 本の穴に設置する計画であり、全体で 9,600 球の耐圧ガラス球が必要になる見込みです。当社製品は特に低温環境下での低放射線性能について高い評価を受けております。

なお、本件による当期連結業績への影響は軽微ですが、中長期的な事業拡大及び市場開拓の契機になるものです。

以上